

1. Report No. UMTRI-2013-40		2. Government Accession No.		3. Recipient's Catalog No.	
4. Title and Subtitle 米国の車社会はピークに達したのか？ Part 3: 軽車両による燃料消費				5. Report Date November 2013	
				6. Performing Organization Code 383818	
7. Author(s) Michael Sivak				8. Performing Organization Report No. UMTRI-2013-40	
9. Performing Organization Name and Address The University of Michigan Transportation Research Institute 2901 Baxter Road Ann Arbor, Michigan 48109-2150 U.S.A.				10. Work Unit no. (TRAIS)	
				11. Contract or Grant No.	
12. Sponsoring Agency Name and Address The University of Michigan Sustainable Worldwide Transportation <a href="http://www.umich.edu/~umtriswt">http://www.umich.edu/~umtriswt</a>				13. Type of Report and Period Covered	
				14. Sponsoring Agency Code	
15. Supplementary Notes					
16. Abstract <p>本研究は、米国における軽車両（乗用車、ピックアップトラック、SUV、ライトバン）による燃料消費の傾向を調査したものである。調査期間は、1984年から2011年までである。この研究は、登録された軽車両の台数と走行距離の一致した傾向を分析したシバック（2013a; 2013b）の追加調査である。</p> <p>全燃料消費の傾向に関して報告されているが、主な興味は、一人当たりの燃料消費、運転免許保有者一人当たりの燃料消費、一家族当たりの燃料消費、登録車両当たりの燃料消費であった。これらの割合の全ては、2003年もしくは2004年で最大値に達し、それは景気低迷が始まる前の数年間であり、2011年までに13から17%減少した。これらの最大値は、走行距離割合の最大値と同時に起きている。しかしながら、最大値と2011年の値の間における燃料消費割合の低下（13から17%）は、燃費改善の寄与分を反映しても、走行距離割合の低下分（5から9%）よりも大きかった。</p> <p>走行距離割合の低下開始は、経済の変化や期待される燃費改善による短期間の結果ではないので、燃料消費割合における2004年の最大値は、長期的な期間における可能性であるとした方がよい。</p> <p>本研究と以前の二つの研究から総合した結果、一人当たり、運転免許保有者一人当たり、そして一家族当たりに関して、過去と比べて現在は、軽車両台数が少なく、それぞれの走行距離も少なく、燃料消費が少ないので、現在の燃料消費割合は、1984年に対応する割合に比べて少ないことが示されている。</p> <p>現在の年間の燃料消費割合の良い推定値は、一人当たり 398 ガロン、運転免許保有者一人当たり 585 ガロン、一家族当たり 1,033 ガロン、そして登録車両台数一台当たり 530 ガロンである。</p>					
17. Key Words 車社会, 燃料消費, 車両, 運転免許保有者, 家族				18. Distribution Statement Unlimited	
19. Security Classification (of this report) None		20. Security Classification (of this page) None		21. No. of Pages 19	22. Price